

令和３年度
成育医療分野における
愛顔（えがお）をつなぐ
連携体制構築推進事業
報告書

令和３年度
成育医療分野における薬物療法等に係る連携体制構築推進事業

I 事業の背景と目的

成育医療分野の調剤・服薬指導については、発育に応じて行う必要があり、また、近年増加している医療的ケアを必要とする小児患者やその家族に対しては、特殊な調剤技術や丁寧な服薬指導が必要とされ、小児の薬物療法に係る専門性の高い薬剤師が求められている。

また、令和3年2月9日に閣議決定された「成育医療等の提供に関する施策の総合的な推進に関する基本的な方針について」において、「小児医療等における専門的な薬学管理に対応するため、医療機関・薬局の医療従事者間の連携を推進する」こととされており、医療機関やコーディネーター、小児患者を地域で支える個人・組織の方々と薬局との多職種連携を通して、総合的に支援していく必要がある。

（一社）愛媛県薬剤師会では、愛媛県からの委託により、令和元年度に「愛顔の多職種連携等薬剤師人材育成推進事業」、令和2年度に「多職種連携による愛顔（えがお）の認定薬局整備支援事業」を実施し、「医療機関－薬局間の情報提供体制の構築」「入退院支援研修会」などを行うことで、多職種、多機関との連携構築を進めてきた。

今回、これまでに構築してきた医療機関－薬局間の連携体制を発展させ、医療的ケア児等を支える地域の医療提供体制の確保及び推進を行うために、以下4事業を実施することとする。

令和3年度実施事業

1. 成育医療分野への関わりに関する薬局の実態調査の実施

- ・ 県内薬局を対象とした実態調査を実施
- ・ 「成育医療分野の総合支援薬剤師ステップアップ研修会」の研修内容に反映

2. 成育医療分野における総合的支援のための多職種意見交換会の開催

- ・ 医療職、介護職、行政職、支援団体等と薬剤師での多職種意見交換会を開催
- ・ 多職種から薬剤師に求めることについてアンケート調査

3. 成育医療分野の総合支援ステップアップWEB研修会の開催

- ・ 総合的な研修プログラムを作成
- ・ 県下全域を対象としてWEBツールを活用した研修会を実施

4. 成育医療分野の総合支援ステップアップ多職種連携ワークショップの開催

- ・ 医療機関のほか、様々な団体と日頃から顔が見える関係を構築することを目的とし多職種が参加する「成育医療分野の多職種連携ワークショップ」を開催

Ⅱ 事業実施方法

(1) 計画の策定

愛媛県薬剤師会理事会及び連絡協議会にて事業方針を協議した結果、令和3年度は、小児の薬物療法に係る専門性の高い薬剤師の育成、医療機関やコーディネーター、小児患者を地域で支える個人・組織の方々と薬局との多職種連携を通して、総合的に支援する体制の構築を目的として、これまでに構築してきた医療機関－薬局間の連携体制を発展させ、医療的ケア児等を支える地域の医療提供体制の確保及び推進を行うこととした。なお、各地域での事業方針や進捗状況は、愛媛県薬剤師会理事会において確認することとする。事業の実施は、「愛顔事業担当理事」を中心とする「愛顔事業ワーキンググループ」とし、詳細な企画、決定、準備、実施することとした。

(2) 事業の実施

①成育医療分野への関わりに関する薬局の実態調査の実施

- ア 成育医療分野の薬物療法に係る専門性の高い薬剤師の育成に当たり、県内における薬局での対応実態を把握し、収集したデータを、「成育医療分野の総合支援薬剤師ステップアップ研修会」の研修内容に反映させる。
- イ 実態調査は薬局・薬剤師のみならず、他職種・他団体にも貴重な情報となるため、個人情報が特定できない形において他職種・他団体への情報提供資料としても活用を行う。

②成育医療分野における総合的支援のための多職種意見交換会の開催

- ア 医療職、介護職、行政職、支援団体等と薬剤師での多職種意見交換会をモデル地区にて開催する。
- イ 成育医療分野において薬剤師が出来ることを紹介する。
- ウ 多職種が薬剤師に求めることについてアンケート調査を行う。

③成育医療分野の総合支援ステップアップWEB研修会の開催

- ア 実態調査の結果及び意見交換会の結果を踏まえた総合的な研修プログラムを作成する。
- イ 県下全域の薬剤師及びを対象としてWEB研修会を実施する。

④成育医療分野の総合支援ステップアップ多職種連携ワークショップの開催

- ア 多職種が参加するワークショップを開催する。
- イ 情報共有方法を含む連携体制について検討・構築を図る。
- ウ 事例検討を通して実践的なレベルアップに取り組む。

（３）事業の評価

実施した研修会等でそれぞれアンケート調査を実施し、受講前後における習熟度等を調査する。また、年度当初及び年度末において、成育医療分野における薬局での対応状況を調査し、事業実施による効果を評価する。

（評価指標）

- ①新たに対応を行った患者数
- ②新たに連携を行った職種数
- ③新たに患者対応として実施した内容

Ⅲ 事業実施結果について

Ⅲ―１ 成育医療分野への関わりに関する薬局の実態調査の実施

①妊娠から出産、小児期にわたる医療への薬局での関わりについてのアンケート
愛媛県内の保険薬局を対象として Google フォームを用いたWEB形式のアンケートにて実施した。（令和３年１０月４日～１０月１８日）

②アンケート結果の他職種への紹介

新居浜市医療的ケア児等支援協議会において、新居浜市内の成育医療分野における薬局の現状についてのアンケート結果報告を実施した。（令和３年１１月１８日）

１）妊娠から出産、小児期にわたる医療への薬局での関りについてのアンケート
（令和３年１０月４日～１０月１８日 実施）

○現在または過去に、周産期の患者との関わりがあるか 複数回答

（ $n=325$ 回答率 54.0%（ ）内のパーセンテージは支部回答薬局中の割合）

支部	現在関わりがある		過去関わりがあった		なし
	外来	在宅	外来	在宅	
宇摩	1(12.5%)		5(62.5%)		2(25.0%)
新居浜	13(41.9%)		10(32.3%)		8(25.8%)
西条	3(11.5%)		8(30.8%)		15(57.7%)
今治	11(21.6%)	1(2.0%)	18(35.3%)		21(41.2%)
松山	33(20.0%)		72(43.6%)		58(35.2%)
大洲	1(11.1%)		4(44.4%)		3(33.3%)
八幡浜	1(5.9%)		6(35.3%)		10(58.8%)
宇和島	4(28.6%)		6(42.9%)		4(28.6%)
県全体	67(20.6%)	1(0.3%)	129(39.7%)		121(37.2%)

○周産期の患者との関わりの中で連携した職種 複数回答

（ $n=196$ （ ）内のパーセンテージは支部回答薬局中の割合）

支部	医師	看護師	他機関の 薬剤師	ヘルパー	行政職員	相談員	支援団体
宇摩	2(33.3%)						
新居浜	7(30.4%)	1(4.3%)					
西条	4(36.4%)						
今治	14(46.7%)	1(3.3%)	2(18.2%)		1(3.3%)		
松山	40(38.1%)	7(6.7%)	4(3.8%)		1(1.0%)		1(1.0%)
大洲	2(40.0%)	1(20.0%)	1(20.0%)				
八幡浜	5(71.4%)						
宇和島	4(40.0%)	1(10.0%)					
県全体	78(39.8%)	11(5.6%)	7(3.6%)		2(1.0%)		1(0.5%)

○周産期の患者との関わりの中で困ったこと 自由回答（抜粋）

- ・有益性投与に関して
- ・使用可能な薬剤情報や信頼性について
- ・医師の処方意図と薬局からの説明について

○現在または過去に、医療的ケア児の患者との関わりがあるか 複数回答

（n = 325 回答率 54.0%（ ）内のパーセンテージは支部回答薬局中の割合）

支部	現在関わりがある		過去関わりがあった		なし
	外来	在宅・施設	外来	在宅・施設	
宇摩					8 (100.0%)
新居浜	6 (19.4%)	2 (6.5%)	5 (16.1%)		18 (58.1%)
西条	1 (3.8%)	3 (11.5%)	2 (7.7%)	1 (3.8%)	20 (76.9%)
今治	7 (13.7%)		6 (11.8%)	1 (2.0%)	38 (74.5%)
松山	21 (12.7%)	13 (10.7%)	7 (4.2%)	4 (2.4%)	121 (73.3%)
大洲					9 (100.0%)
八幡浜	1 (5.9%)		1 (5.9%)		15 (88.2%)
宇和島	1 (7.1%)		2 (14.3%)		11 (78.6%)
県全体	37 (11.4%)	18 (5.5%)	23 (7.1%)	6 (1.8%)	240 (73.8%)

○現在関わっている医療的ケア児の患者の状態 複数回答

（n = 85 （ ）内は過去の関わり）

支部	人工呼吸器	気管切開	喀痰吸引	経管栄養	酸素療法	導尿	中心静脈栄養法	不明
宇摩								
新居浜		1 (1)	3 (2)	3 (4)		1		2 (1)
西条	1 (1)	2	2 (1)	3 (1)	2 (2)		(1)	
今治	(2)	(3)	3 (2)	4 (5)	1 (2)			2 (1)
松山	3 (1)	3 (1)	14 (3)	24 (8)	5 (2)	1	2	1 (1)
大洲								
八幡浜					1			(1)
宇和島		(12)	(1)	(1)				1 (1)
県全体	4 (4)	6 (6)	22 (9)	34 (19)	9 (6)	2	2 (1)	6 (5)

○医療的ケア児の患者との関わりの中で連携した職種 複数回答

(n=85 () 内のパーセンテージは支部回答薬局中の割合)

支部	医師	看護師	他機関の 薬剤師	ヘルパー	通所 事業所	学校・ 保育職員	行政職員	コーディネーター 相談員	支援団体
宇摩									
新居浜	5 (38. 5%)	2 (15. 4%)	2 (15. 4%)	1 (7. 7%)	1 (7. 7%)			1 (7. 7%)	
西条	3 (50. 0%)		1 (16. 7%)						
今治	3 (23. 1%)	3 (23. 1%)	1 (7. 7%)						
松山	19 (43. 2%)	11 (25. 0%)	4 (9. 1%)	4 (9. 1%)	2 (4. 5%)	3 (6. 8%)			1 (2. 3%)
大洲									
八幡浜									
宇和島			1 (33. 3%)						
県全体									

○医療的ケア児の患者との関わりの中で困ったこと 自由回答 (抜粋)

- ・病状、治療内容 (方針)、副作用などの判別が困難
- ・患者さん、家族などとのコミュニケーション
- ・医療材料等の調達

○現在または過去に、小児慢性特定疾患の患者との関わりがあるか 複数回答

(n=325 回答率 54. 0% () 内のパーセンテージは支部回答薬局中の割合)

支部	現在関わりがある		過去関わりがあった		なし
	外来	在宅・施設	外来	在宅・施設	
宇摩	2 (25. 0%)		1 (12. 5%)		5 (62. 5%)
新居浜	11 (35. 5%)	2 (6. 5%)	9 (29. 0%)		10 (32. 3%)
西条	8 (30. 8%)		3 (11. 5%)		15 (57. 7%)
今治	13 (25. 5%)	1 (2. 0%)	12 (23. 5%)		25 (49. 0%)
松山	56 (33. 9%)	8 (4. 8%)	21 (12. 7%)	1 (0. 6%)	84 (50. 9%)
大洲			4 (44. 4%)		5 (55. 6%)
八幡浜	4 (23. 5%)		2 (11. 8%)		11 (64. 7%)
宇和島	6 (42. 9%)		2 (14. 3%)		6 (42. 9%)
県全体	100 (30. 8%)	11 (3. 4%)	54 (16. 6%)	1 (0. 3%)	161 (49. 5%)

○現在関わっている小児慢性特定疾患の患者の状態 複数回答

(n = 161 () 内は過去の関わり)

支部	悪性新生物	慢性腎疾患	慢性呼吸器疾患	慢性心疾患	内分泌疾患	膠原病	糖尿病	先天性代謝異常	血液疾患
宇摩		2							
新居浜	1	3(1)	1	3	1(1)	1	1	2	(1)
西条		2	1(2)	7	2(1)		1	1(3)	1(2)
今治		2	1(2)	7	2(1)		1	1(3)	1(2)
松山	4	9	7	16(5)	5	3	7(1)	13(2)	11(3)
大洲				(1)	(1)			(1)	
八幡浜			1(1)	1(1)					
宇和島	2	1		2	1	1(1)	1	2	
県全体	7	19(1)	14(5)	36(7)	11(4)	5(1)	11(1)	19(9)	14(8)

支部	免疫実感	神経・筋疾患	慢性消化器疾患	染色体又は遺伝子に変化を伴う症候群	皮膚疾患群	骨系統疾患	脈管系疾患	成長ホルモンの治療	分からない
宇摩	1	(1)							
新居浜			(1)	1(1)	1(1)			1	3(3)
西条	1	1		1(2)	1			2(1)	(1)
今治	2	2		2(2)	1(1)			4(3)	
松山	4(1)	11(2)	8	9(1)	3(1)	1	3(1)	14(5)	4(4)
大洲				(1)					(1)
八幡浜		1						2(1)	
宇和島				1	1			2(2)	
県全体	8(1)	15(3)	8(1)	14(7)	7(3)	1	3(1)	25(12)	7(9)

○小児慢性特定疾患の患者との関わりの中で困ったこと 自由回答（抜粋）

- ・病状、治療内容（方針）などの判別が困難
- ・薬用量の確認
- ・患者さん、家族などとのコミュニケーション
- ・特殊な薬剤の調達

○処方箋応需以外の場面での相談を応需したことがあるか 複数回答

(n = 325 回答率 54.0% () 内のパーセンテージは支部回答薬局中の割合)

支部	周産期	医療的ケア児	小児慢性 特定疾患	左記以外	なかった
宇摩	1 (12.5%)			1 (12.5%)	7 (87.5%)
新居浜					31 (100.0%)
西条		1 (3.8%)			25 (96.2%)
今治	2 (3.9%)	4 (7.8%)	6 (11.8%)	2 (3.9%)	42 (82.4%)
松山	5 (3.0%)	6 (3.6%)	4 (2.4%)		155 (93.9%)
大洲					9 (100.0%)
八幡浜					17 (100.0%)
宇和島	1 (7.1%)				13 (92.9%)
県全体	9 (2.8%)	11 (3.4%)	10 (3.1%)	3 (0.9%)	299 (92.0%)

○成育医療分野を地域で支援する施設、団体等について知っているか

(n = 325 回答率 54.0% () 内のパーセンテージは支部回答薬局中の割合)

支部	知っている	知らない
宇摩	1 (12.5%)	7 (87.5%)
新居浜		31 (100.0%)
西条		26 (100.0%)
今治	4 (7.8%)	47 (92.2%)
松山	12 (3.7%)	151 (91.5%)
大洲		9 (100.0%)
八幡浜		16 (100.0%)
宇和島		14 (100.0%)
県全体	17 (5.2%)	301 (92.6%)

○成育医療分野への対応を行うにあたり知りたい内容 複数回答

(n=325 回答率 54.0% () 内のパーセンテージは回答薬局中の割合)

項目	受講希望
成育医療全般について	219 (67.4%)
周産期医療について	161 (49.5%)
医療的ケア児について	153 (47.1%)
小児慢性特定疾患について	179 (55.1%)

項目	周産期	医療的ケア児	小児慢性特定疾患
病態・診断・治療について	192 (59.1%)	226 (69.5%)	230 (70.8%)
薬物療法について	251 (77.2%)	245 (75.4%)	248 (76.3%)
調剤技術について	77 (23.7%)	126 (38.8%)	115 (35.4%)
服薬指導について	172 (52.9%)	181 (55.7%)	185 (56.9%)
公的支援制度について	126 (38.8%)	141 (43.4%)	134 (41.2%)
民間の支援制度について	83 (25.5%)	100 (30.8%)	89 (27.4%)
患者・家族とのコミュニケーション法について	81 (24.9%)	123 (37.8%)	119 (36.6%)
患者・家族の心理、思いについて	92 (28.3%)	109 (33.5%)	97 (29.8%)
他職種との連携方法について	116 (35.7%)	118 (36.3%)	112 (34.5%)

実態調査結果より、専門医療機関や対応する環境によって地域差が起きていることが示唆された。これは、県庁所在地である松山市の専門医療機関を受診後、地域の薬局ではなく専門医療機関の周辺の薬局で対応をおこなっていること、その他地域でも専門医が対応できる地域に集中し、一部の薬局しか対応の経験になっていないことが考えられた。

このことより、大半の薬剤師に経験がないため、「対応を行うにあたり知りたい内容」においても、薬物療法の基礎となる「病態・診断・治療について」「薬物療法について」に偏る結果となったのではないかと考えられる。

全体的に見られる情報、知識、経験の不足が成育医療分野の課題に対する認識の低さにもつながっているとも考えられ、経験のある薬剤師からの意見として得られている実際支援する際には不可欠となる患者や家族の生活面への関わり、他職種との連携への関心が低い結果につながったのではないかと考えられる。

この結果を踏まえて、研修会のプログラムとしては、まず「知る（情報に触れる）」ことから始め、「病態・診断・治療について」「薬物療法について」を含めた総合的な内容とすることが必要であると考えられた。

Ⅲ―2 成育医療分野における総合的支援のための多職種意見交換会の開催

①成育医療分野における総合的支援のための多職種意見交換会（西条）の開催

コロナ禍で対面による多職種の情報交換会の開催が難しかったため、WEB開催とした。（令和3年9月27日）

②成育医療分野における総合的支援のための多職種意見交換会（新居浜）の開催

コロナ禍で対面による多職種の情報交換会の開催が難しかったため、WEB開催とした。（令和3年10月7日）

③成育医療分野における多職種意見交換会アンケートの実施

上記①②の多職種意見交換会の終了後に、外部からの参加者に対して、Googleフォームを用いたWEB形式のアンケートを実施した。（令和3年9月27日 令和3年10月7日）

1）成育医療分野における総合的支援のための多職種意見交換会（西条）

（令和3年9月27日 実施）

外部からの出席者

小児科医師	1名	社会福祉協議会関係者	1名
事業所関係者	2名	患者団体関係者	2名
行政関係者	1名	病院薬剤師	1名
民間支援団体関係者(当事者)	2名		

一般社団法人 愛媛県薬剤師会
成育医療分野における薬物療法等に係る連携体制構築推進事業
「成育医療分野における総合的支援のための多職種意見交換会」

日時：R3年10月7日 15:00～16:30（ZOOMミーティングを使用）

1. 開会挨拶

愛媛県薬剤師会 会長 古川 清

2. 参加者の紹介

3. 事業背景と薬剤師ができることの紹介

愛媛県薬剤師会 愛顔事業担当 庄野 由柱

4. 重症心身障がい児等の現状に関するアンケート調査 結果紹介

たんぽぽクリニック 大藤 佳子先生

5. 意見交換

8. 閉会挨拶

愛媛県薬剤師会 専務理事 縄田 幸裕



モデル地区として設定した西条地区での、意見交換会では主に民間関係者の多職種との意見交換を行った。

まず他職種の方へ薬剤師の事を知ってもらうため、今回の事業の目的や薬剤師の出来ることなど、事例を交えながら紹介を行った。既に薬剤師によるサービスを知ってもらっている方もいた一方、はじめて知る内容だったとの声も多く頂き、当初の目的を果たすことが出来た。

小児科医師からは、連携の重要性や、地域の医療的ケア児の現状調査を紹介いただくことで、参加した多職種も含めた連携の必要性を再認識することでき、その後のスムーズな意見交換につなげていくことが出来た。

また、後半の意見交換においては、多職種からの困っていることや、前半の内容を踏まえて今後薬剤師に求めることなどの話を中心にすすめ、それに応じ薬剤師としての回答又は対応が出来ることについて説明する等、今後の連携体制構築に向けて意見を交わした。

2) 成育医療分野における総合的支援のための多職種意見交換会（新居浜）
（令和3年10月7日 実施）

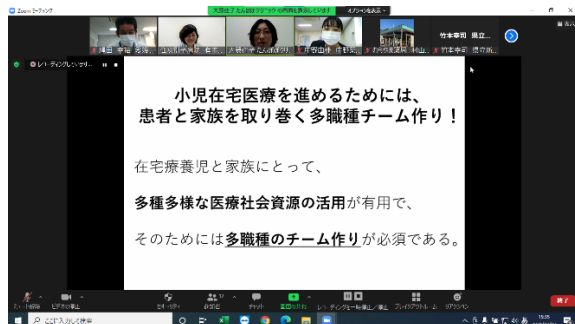
外部からの出席者

小児科医師	2名	社会福祉協議会関係者	1名
事業所関係者	1名	学校関係者	1名
行政関係者	2名	病院薬剤師	1名

一般社団法人 愛媛県薬剤師会
成育医療分野における薬物療法等に係る連携体制構築推進事業
「成育医療分野における総合的支援のための多職種意見交換会」

日時：R3年10月7日 15:00～16:30（ZOOMミーティングを使用）

1. 開会挨拶
愛媛県薬剤師会 会長 古川 清
2. 参加者の紹介
3. 事業背景と薬剤師ができることの紹介
愛媛県薬剤師会 愛顔事業担当 庄野 由桂
4. 重症心身障がい児等の現状に関するアンケート調査 結果紹介
たんぽぽクリニック 大藤 佳子先生
5. 意見交換
8. 閉会挨拶
愛媛県薬剤師会 専務理事 縄田 幸裕



モデル地区として設定した新居浜地区での、意見交換会は、従前から開催されている「新居浜市医療的ケア児等支援協議会（これまで薬剤師の参加はなされていない）」に対して働きかけを行うことにより、愛媛県薬剤師会の主催する意見交換会の参加者として協議会メンバーに案内することを承諾いただき、協議会のメンバーを中心とする多職種との意見交換を行った。

西条地区と同様の進行方式で開催を行ったが行政関係職のメンバーが多く、普段薬剤師との接点がありませんでしたこともあってか、薬剤師に出来ることについて大変興味を持っていただくことが出来た。

3) 成育医療分野における総合的支援のための多職種意見交換会アンケート

(令和3年9月27日 令和3年10月7日 実施)

○成育医療分野で薬剤師が出来ることで知っていたこと 複数回答

成育医療分野で薬剤師にしてほしいこと 複数回答

	西条 (n=9)		新居浜 (n=7)		合計 (n=16)	
	知っていた	してほしい	知っていた	してほしい	知っていた	してほしい
お薬を準備する際のいろいろな工夫	5	3	6	6	11	9
お薬を使う際の使い方に関するいろいろな工夫	5	4	5	5	10	9
お薬をうまく使うためなど、お薬以外の物の準備 (介護用品など)	4	3	5	6	9	9
薬剤師が自宅まで伺って、お薬の管理や使用方法のお手伝をする	5	5	6	5	11	10
処方箋なしで、お薬やその他のことについての相談	2	7	3	2	5	9
違うところでもらったお薬の、相談や使いやすくする工夫	2	6	3	4	5	10
患者さんやその家族以外からの相談	2	6	4	4	6	10

○意見交換会出席後の薬剤師に対する意識の変化

		西条 (n=9)	新居浜 (n=7)	合計 (n=16)
悪くなった ↓ 良くなった	1			
	2			
	3			
	4	4	2	6
	5	5	5	10
平均点数		4.56 点	4.71 点	4.63 点

○今後、成育医療分野の支援の中で薬剤師を活用したいか

		西条 (n=9)	新居浜 (n=7)	合計 (n=16)
活用したくない ↓ 活用したい	1			
	2			
	3			
	4	1	1	2
	5	8	6	14
平均点数		4.89 点	4.86 点	4.88 点

○今回の意見交換会は今後の業務に役立つか

		西条（n＝9）	新居浜（n＝7）	合計（n＝16）
活用したくない ↓ 活用したい	1			
	2			
	3			
	4	1		1
	5	8	7	15
平均点数		4.89 点	5.00 点	4.94 点

○今後もこのような意見交換会があったら参加したいか

	西条（n＝9）	新居浜（n＝7）	合計（n＝16）
参加したい	9	7	16
参加したくない			

○薬剤師に対して臨むこと 自由回答（抜粋）

- ・障がいのあるご利用者さんやご家族は、医療との連携が不可欠な方が多いにも関わらず、医師に伝えるべきことがきちんと伝えにくかったり、逆に聞きたいことも聞けないまま診療を受けている方が多いです。そういった際に、薬剤師さんから薬の説明や他の薬との関係性、服用の仕方など詳しく説明してもらえたり、時に医師との間で連絡してもらい、調整等していただけると助かります。自宅への訪問、薬を届けていただいたり、生活している空間で服用の仕方等アドバイスいただけると助かります。
- ・地域の薬剤師・薬局どおしで協力や連携をしていただけることは、とても有り難いことです。学校や行政、地域の社会資源（福祉サービス等）とのハブになっていただけると助かると思います。

○その他感想 自由回答（抜粋）

- ・事業の一環ということですが、形はどうであれ会議の中でこうして顔が繋がった者として、今後もぜひ一緒に地域貢献できる支援者でありたいと思います。
- ・今後も他職種で交流する機会が増えて欲しいと思いました。次回は、●●市の行政の方にも参加いただきたいです。●●市長さんもお声かけすれば、参加いただけそうに思います。
- ・地域の中での勉強会やカンファレンスが、定期的にできれば、さらに顔の見える連携になっていくと思います。コロナ禍のため、Web カンファレンスから始めてもよいと思います。ありがとうございました。
- ・成育医療分野に薬剤師の方々と福祉部門が連携できることが大切です。今後ともご協力をお願いします。

薬剤師が出来ることについては、処方箋に基づく調剤行為や指導についての認知度は高く、また要望も多いという結果であったが、処方箋がなくても実施できる相談等の内容については認知度が低い結果が出た。逆に気軽な相談が出来ることについてのニーズが高いことも分かった。

薬剤師の業務について説明する機会を持てたことで、お互いのギャップを埋めることにつながり、意見交換をすることで顔の見える関係づくりが出来たと考えられる。

Ⅲ—3 成育医療分野の総合支援ステップアップWEB研修会の開催

①成育医療分野の総合支援ステップアップWEB研修会STEP1の実施

研修内容① 行政制度・患者をとりまく環境（「成育医療とは」を含む）

～必要とされるものは何か、社会的支援について知る～

講師 （公社）日本薬剤師会 理事 川名 三知代 先生

研修内容② 周辺知識～地域における支援の紹介

～どんな人がどんな思いでどんな事をしているかを知る～

講師 愛媛県重症心身障がい児（者）を守る会 代表 岩井 正一 先生

多機能型重症心身障がい児（者）施設ピッコロ 管理者 林田 聡 先生

（一社）愛媛県言語聴覚士会 会長

C I L 星空 宇高 竜二 先生（障害当事者 自立支援活動）

（一社）地域ケア研究所 井澤 愛子 先生（保健師・周産期支援）

障害者生活支援センターあゆみ苑 緒方 春美 先生（相談員）

参加者は薬剤師に限らず、成育医療分野に携わる多職種及び一般参加者も対象とした。

案内チラシ配布先（順不同）

- ・（一社）愛媛県薬剤師会 会員薬局
- ・（一社）愛媛県病院薬剤師会 会員在籍医療施設
- ・新居浜市 医療的ケア児等支援協議会委員
（特別支援学校、相談支援事業所、保健所、保健センター、新居浜市など）
- ・愛媛県庁 薬務衛生課
- ・愛媛県内 保健所（四国中央・西条・今治・松山・松山市・八幡浜・宇和島）
- ・愛媛県庁 記者クラブ
- ・（公社）日本薬剤師会を通じて、各都道府県薬剤師会

（令和3年12月12日 ZOOMウェビナーにて実施）

②成育医療分野の総合支援ステップアップWEB研修会STEP2の実施

研修内容③ 小児疾患の薬物療法

～専門的領域の知識を習得し、望まれている支援について知る～

講師 愛媛大学医学部附属病院 小児科 医師 檜垣 高史 先生

たんぽぽクリニック 医師 大藤 佳子 先生

研修内容④ 薬薬連携、多職種連携による小児の服薬管理支援について

～実践的に薬剤師に出来ることは何かを知る～

講師 広島県立病院 薬剤科 笠原 庸子 先生

参加者は薬剤師に限らず、成育医療分野に携わる多職種及び一般参加者も対象とした。

案内チラシ配布先（順不同）

- ・（一社）愛媛県薬剤師会 会員薬局
- ・（一社）愛媛県病院薬剤師会 会員在籍医療施設
- ・新居浜市 医療的ケア児等支援協議会委員
（特別支援学校、相談支援事業所、保健所、保健センター、新居浜市など）
- ・愛媛県庁 薬務衛生課
- ・愛媛県内 保健所（四国中央・西条・今治・松山・松山市・八幡浜・宇和島）
- ・愛媛県庁 記者クラブ
- ・（公社）日本薬剤師会を通じて、各都道府県薬剤師会

（令和４年１月１５日 ＺＯＯＭウェビナーにて実施）

③成育医療分野の総合支援ステップアップWEB研修会の収録動画公開

STEP 1、STEP 2ともに講師の了承のもと動画収録を行い、当日参加できない希望者にも視聴が出来るように、YouTubeにて限定公開を行い、愛媛県薬剤師会HPにおいてリンクすることにより視聴可能とした。

④成育医療分野の総合支援ステップアップWEB研修会受講後アンケートの実施

上記①②のWEB研修会の終了後に、参加者に対して、Google フォームを用いたWEB形式のアンケートを施した。（令和３年１２月１２日 令和４年１月１５日）

⑤成育医療分野の総合支援ステップアップWEB研修会傍聴後アンケートの実施

上記①②のWEB研修会の終了後に、全国都道府県薬剤師会の傍聴参加者に対して、Google フォームを用いたWEB形式のアンケートを実施した。（令和３年１２月１２日 令和４年１月１５日）

1) 成育医療分野の総合支援ステップアップWEB研修会

(令和3年12月12日 令和4年1月15日 実施)

STEP1 出席者 (令和3年12月12日実施)

愛媛県内		愛媛県外	
薬局薬剤師	67名	薬局薬剤師 (岡山県)	2名
病院薬剤師	26名	薬局薬剤師 (新潟県)	1名
調剤事務	6名	薬局薬剤師 (宮崎県)	1名
教員	3名	薬局薬剤師 (長崎県)	1名
その他薬剤師	2名	病院薬剤師 (北海道)	1名
看護師	2名	病院薬剤師 (千葉県)	1名
社会福祉士	2名	病院薬剤師 (埼玉県)	1名
作業療法士	1名	病院薬剤師 (大阪府)	1名
医療ソーシャルワーカー	1名	病院薬剤師 (広島県)	1名
療術師	1名	病院薬剤師 (徳島県)	1名
登録販売者	1名		
行政職員	1名		
合計	113名	合計	11名

傍聴者			
長崎県	5名	神奈川県	1名
愛知県	2名	奈良県	1名
沖縄県	2名	新潟県	1名
宮崎県	2名	福島県	1名
大阪府	1名	三重県	1名
香川県	1名		
		合計	18名

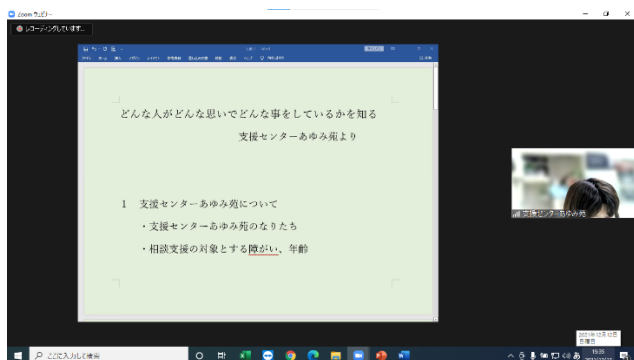
WEB受講者	
プレ企画	47名
研修1	52名
研修2	48名
アフター企画	17名

STEP 2 出席者（令和4年1月15日実施）

愛媛県内		愛媛県外	
薬局薬剤師	72名	薬局薬剤師（山口県）	3名
病院薬剤師	11名	薬局薬剤師（熊本県）	1名
調剤事務	2名	薬局薬剤師（埼玉県）	1名
医師	2名	薬局薬剤師（千葉県）	1名
看護師	2名	薬局薬剤師（東京都）	1名
学生	1名	薬局薬剤師（長野県）	1名
医療ソーシャルワーカー	1名	薬局薬剤師（宮崎県）	1名
		病院薬剤師（大阪府）	2名
		病院薬剤師（埼玉県）	1名
		病院薬剤師（東京都）	1名
		病院薬剤師（兵庫県）	1名
		病院薬剤師（広島県）	1名
合計	91名	合計	15名

傍聴者			
宮崎県	2名	三重県	1名
愛知県	1名	香川県	1名
沖縄県	1名	岐阜県	1名
奈良県	1名	熊本県	1名
合計			8名

WEB受講者	
プレ企画	19名
研修1	44名
研修2	25名
アフター企画	7名



2) 成育医療分野の総合支援ステップアップWEB研修会受講後アンケート (令和3年12月12日 令和4年1月15日 実施)

○研修受講後の理解度の変化【研修1 成育医療について】(n=88)

		受講前	受講後
全く理解していない	1	14(15.9%)	1(1.1%)
あまり理解していない	2	39(44.3%)	1(1.1%)
どちらでもない	3	15(17.0%)	4(4.5%)
少し理解している	4	18(20.5%)	67(76.1%)
よく理解している	5	2(2.3%)	15(17.0%)
平均点数		2.49点	4.07点

○研修受講後の理解度の変化【研修1 患者さんを取り巻く環境について】(n=88)

		受講前	受講後
全く理解していない	1	11(12.5%)	1(1.1%)
あまり理解していない	2	36(40.9%)	4(4.5%)
どちらでもない	3	21(23.9%)	6(6.8%)
少し理解している	4	16(18.2%)	60(68.2%)
よく理解している	5	4(4.5%)	17(19.3%)
平均点数		2.61点	4.00点

○研修受講後の理解度の変化【研修2 患者団体の支援について】(n=88)

		受講前	受講後
全く理解していない	1	23(26.1%)	1(1.1%)
あまり理解していない	2	45(51.1%)	4(4.5%)
どちらでもない	3	12(13.6%)	9(10.2%)
少し理解している	4	6(6.8%)	67(76.1%)
よく理解している	5	2(2.3%)	7(8.0%)
平均点数		2.08点	3.85点

○研修受講後の理解度の変化【研修2 支援事業所の支援について】（n = 88）

		受講前	受講後
全く理解していない	1	18 (20.5%)	1 (1.1%)
あまり理解していない	2	47 (53.4%)	3 (3.4%)
どちらでもない	3	15 (17.0%)	13 (14.8%)
少し理解している	4	7 (8.0%)	64 (72.7%)
よく理解している	5	1 (1.1%)	7 (8.0%)
平均点数		2.22 点	3.83 点

○研修受講後の理解度の変化【研修2 支援活動団体の支援について】（n = 88）

		受講前	受講後
全く理解していない	1	20 (22.7%)	1 (1.1%)
あまり理解していない	2	46 (52.3%)	4 (4.5%)
どちらでもない	3	17 (19.3%)	11 (12.5%)
少し理解している	4	4 (4.5%)	67 (76.1%)
よく理解している	5	1 (1.1%)	5 (5.7%)
平均点数		2.09 点	3.81 点

○研修受講後の理解度の変化【研修3 小児疾患の薬物療法について】（n = 55）

		受講前	受講後
全く理解していない	1	3 (5.5%)	0 (0.0%)
あまり理解していない	2	12 (21.8%)	0 (0.0%)
どちらでもない	3	18 (32.7%)	9 (16.4%)
少し理解している	4	21 (38.2%)	34 (61.8%)
よく理解している	5	1 (1.8%)	12 (21.8%)
平均点数		3.09 点	4.05 点

○研修受講後の理解度の変化【研修3 小児患者さんの在宅医療・生活支援について】

（n = 55）

		受講前	受講後
全く理解していない	1	8 (14.5%)	0 (0.0%)
あまり理解していない	2	22 (40.0%)	1 (1.8%)
どちらでもない	3	17 (30.9%)	6 (10.9%)
少し理解している	4	6 (10.9%)	42 (76.4%)
よく理解している	5	2 (3.6%)	6 (10.9%)
平均点数		2.49 点	3.96 点

○研修受講後の理解度の変化【研修４ 小児患者さんの服薬管理支援について】

(n = 55)

		受講前	受講後
全く理解していない	1	4 (7.3%)	0 (0.0%)
あまり理解していない	2	13 (23.6%)	0 (0.0%)
どちらでもない	3	23 (41.8%)	6 (10.9%)
少し理解している	4	13 (23.6%)	40 (72.7%)
よく理解している	5	2 (3.6%)	9 (16.4%)
平均点数		2.93 点	4.05 点

○研修受講後の理解度の変化【研修４ 小児患者さんの薬薬連携について】 (n = 55)

		受講前	受講後
全く理解していない	1	3 (5.5%)	0 (0.0%)
あまり理解していない	2	22 (40.0%)	2 (3.6%)
どちらでもない	3	17 (30.9%)	5 (9.1%)
少し理解している	4	13 (23.6%)	39 (70.9%)
よく理解している	5	0 (0.0%)	9 (16.4%)
平均点数		3.09 点	4.00 点

○研修受講後の理解度の変化【研修４ 小児患者さんの多職種連携について】 (n = 55)

		受講前	受講後
全く理解していない	1	5 (9.1%)	0 (0.0%)
あまり理解していない	2	19 (34.5%)	3 (5.5%)
どちらでもない	3	18 (32.7%)	7 (12.7%)
少し理解している	4	12 (21.8%)	34 (61.8%)
よく理解している	5	1 (1.8%)	11 (20.0%)
平均点数		2.69 点	3.96 点

○今回の研修は役に立ったか (STEP 1 : n = 88 STEP 2 : n = 55)

		STEP 1	STEP 2
全く役に立たなかった	1	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	2	1 (1.1%)	0 (0.0%)
↓	3	5 (5.7%)	3 (5.5%)
	4	38 (43.2%)	19 (34.5%)
とても役に立った	5	44 (50.0%)	33 (60.0%)
平均点数		4.42 点	4.55 点

○今回の研修での患者さんへの支援の意識変化

(薬剤師のみSTEP 1 : n = 83 STEP 2 : n = 54)

		STEP 1	STEP 2
全く自信がなくなった ↓	1	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	2	3 (3.6%)	4 (7.4%)
	3	21 (25.3%)	8 (14.8%)
	4	45 (54.2%)	32 (59.3%)
とても自信が持てるようになった	5	14 (16.9%)	10 (18.5%)
平均点数		3.84 点	3.88 点

○今後もこのような研修会があれば参加したいか

(STEP 1 : n = 88 STEP 2 : n = 55)

	STEP 1	STEP 2
参加したい	87 (98.9%)	54 (98.2%)
どちらともいえない	1 (1.1%)	1 (1.8%)
参加したくない	0 (0.0%)	0 (0.0%)

○今後研修会で聞きたい内容 自由回答 (抜粋)

STEP 1

- ・麻薬調剤
- ・小児在宅をされている方のお話
- ・患者の経済負担と行政の負担、法と制度
- ・多職種連携
- ・医療的ケアの必要な方の服薬指導等
- ・実際の薬剤師の関わり事例
- ・今回のように多職種のかたのお話
- ・医療的ケア児、障害者の訪問薬剤管理指導における支援事例集紹介
- ・東予の事業所さんが中心だったので、中予の事業所さんについて
- ・医療的ケア児の具体的なケア内容
- ・保護者の立場からあると助かる支援、薬剤師として関われること
- ・産前産後ケア
- ・学生へ向けての月経から妊娠
- ・避妊について薬剤師として発信出来ること
- ・特別児童扶養手当の制度について

STEP 2

- ・災害時の対応
- ・自宅で使用する医療機器

- ・小児循環器領域
- ・退院時カンファレンスについて知りたい
- ・災害時や、緩和ケアなど
- ・患者さんの疾患をうまく聞き取れないので、何かいい方法があれば教えて欲しい
- ・成人先天性疾患患者のケアに関して

研修前後において、知識習得度はどの項目においても大幅にアップすることが出来たものと考えられる。ただ、支援に対する意識は変化がなく、知識だけではなく実際に支援について触れてみるのがスキルアップにつながるのではないかと考えられた。

STEP 1は課題の周知や現状の情報提供にとどまった部分も多かった。連携の必要性を実感し支援の実践に至るには、より具体的な情報や連携方法の紹介などをしていく必要があると考えられる。

STEP 2は疾患や薬剤がテーマのため薬剤師にとってはSTEP 1に比べると身近に感じやすく興味をもちやすかったが、不慣れな分野のため受講後も理解しきれていない参加者が多い。

STEP 1受講後は、事業実施前アンケートでは興味の低かった生活支援や多職種連携に関する内容を今後学びたいと希望する声が多く、まず知ることによって成育医療分野への理解が生まれている。

3) 成育医療分野の総合支援ステップアップWEB研修会傍聴後アンケート

(令和3年12月12～19日 令和4年1月15～23日 実施)

○研修会全般について

○全体的な評価 (STEP 1 : n = 8 STEP 2 : n = 4)

		STEP 1	STEP 2
とても悪かった ↓	1	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	2	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	3	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	4	6 (75.0%)	2 (50.0%)
とても良かった	5	2 (0.25%)	2 (50.0%)
平均点数		4.25 点	4.50 点

○研修会の企画 (コンセプト) について (STEP 1 : n = 8 STEP 2 : n = 4)

		STEP 1	STEP 2
とても悪かった ↓	1	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	2	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	3	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	4	4 (50.0%)	3 (75.0%)
とても良かった	5	4 (50.0%)	1 (25.0%)
平均点数		4.50 点	4.25 点

○研修会の内容 (コンテンツ) について (STEP 1 : n = 8 STEP 2 : n = 4)

		STEP 1	STEP 2
とても悪かった ↓	1	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	2	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	3	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	4	6 (75.0%)	1 (25.0%)
とても良かった	5	2 (0.25%)	3 (75.0%)
平均点数		4.25 点	4.75 点

○研修会時間について (STEP 1 : n = 8 STEP 2 : n = 4)

		STEP 1	STEP 2
とても悪かった ↓	1	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	2	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	3	4 (50.0%)	0 (0.0%)
	4	3 (37.5%)	3 (75.0%)
とても良かった	5	1 (12.5%)	1 (25.0%)
平均点数		3.63 点	4.25 点

○開催方法について（STEP 1：n=8 STEP 2：n=4）

		STEP 1	STEP 2
とても悪かった ↓	1	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	2	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	3	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	4	1 (12.5%)	1 (25.0%)
とても良かった	5	7 (87.5%)	3 (75.0%)
平均点数		4.88 点	4.75 点

○開催日・開催時間について（STEP 1：n=8 STEP 2：n=4）

		STEP 1	STEP 2
とても悪かった ↓	1	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	2	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	3	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	4	4 (50.0%)	2 (50.0%)
とても良かった	5	4 (50.0%)	2 (50.0%)
平均点数		4.50 点	4.50 点

○良かった点

STEP 1

- ・このタイミングで非常に内容の濃い内容でした。
- ・川名先生の講座が医学的ケア児の全体像を理解するのに非常に分かりやすかった。
- ・前半の講演は網羅的な内容でとても参考になった。
- ・多職種の生の声を聞くことができた点
- ・川名先生の講義で薬剤師の今後の方向性を示してもらえた
- ・川名先生のご講演。様々な方々のご意見や施設等の情報を得ることができた点。
- ・現場の声を聞けて視点が変わりました

STEP 2

- ・普段聞けない専門の先生のコアな講演を聞いた。
- ・他県の薬剤師も研修会に参加できたこと
- ・医療ケア児の現状と対応について考えることができた
- ・具体的事例に基づく講演内容

○悪かった点

STEP 1

- ・一部音声聴きづらい場面がありました。
- ・県内の方には有意義であったと思いますが、周辺知識は、他県の者としては少し物足りなかった。
- ・後半の当事者からの発信は紹介だけに留まっていた。

- ・困ってる事、要望などがあれば、今後の展開への参考になったのでは
- ・休憩無しでは長かった点
- ・他職種のかたへ薬剤師に望むこともお話いただけると良かった
- ・多くの情報がありすぎた感があり、会員の行動に結び付くかとやや心配。
- ・4時間の研修会ですと、途中で1度休憩時間が必要かと思います

STEP 2

- ・もう少し具体的な薬物療法や薬剤師の関わる視点をご教示いただけるとありがたかったです

○この研修会は参考になりましたか（STEP 1：n=8 STEP 2：n=4）

		STEP 1	STEP 2
全く参考にならなかった ↓	1	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	2	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	3	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	4	1 (12.5%)	1 (25.0%)
とても参考になった	5	7 (87.5%)	3 (75.0%)
平均点数		4.88 点	4.75 点

○この研修会は薬剤師のステップアップに役立つと思いますか

（STEP 1：n=8 STEP 2：n=4）

		STEP 1	STEP 2
全く参考にならなかった ↓	1	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	2	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	3	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	4	1 (12.5%)	1 (25.0%)
とても参考になった	5	7 (87.5%)	3 (75.0%)
平均点数		4.88 点	4.75 点

○この研修会のご自身の地域で取り入れたいと思う内容でしたか

（STEP 1：n=8 STEP 2：n=4）

		STEP 1	STEP 2
全く参考にならなかった ↓	1	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	2	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	3	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	4	4 (50.0%)	1 (25.0%)
とても参考になった	5	4 (50.0%)	3 (75.0%)
平均点数		4.50 点	4.75 点

○今後、研修会のテーマとして取り上げたら良いと思う内容があれば教えてください

STEP 1

- ・粉砕・簡易懸濁法について
- ・医療的ケア児の患者、患者家族に対して、実際に薬剤師ができることについて
- ・（薬物療法以外の）理学療法等の実際について。必要な医療器具や衛生材料の取り扱いについて

STEP 2

- ・実践されている方の話
- ・心不全患者への対応

○研修会以外で薬剤師のステップアップに役に立つ企画があれば教えてください

STEP 1

- ・施設見学会
- ・多職種の現状だけでなく、今後薬剤師に何を望んでいるかがあれば具体的に聞いてみたいです。
- ・意見交換会

STEP 2

- ・専門病院・施設の見学会。家族会への参加。

○感想・意見など

STEP 1

- ・施設見学会
- ・多職種の現状だけでなく、今後薬剤師に何を望んでいるかがあれば具体的に聞いてみたいです。
- ・意見交換会

STEP 2

- ・長崎県では医師、看護師以外の他職種との連携がまだまだなので、見習いたいところが多く、大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・薬剤師会の先生方の情熱とご尽力が感じられる会でした。多くの薬剤師にとって未知の分野であり、これからの展開へ向けて大変参考になりました。ありがとうございました。

○プレ企画 愛媛県薬剤師会の取り組み紹介

○テーマの選定（STEP 1：n=8 STEP 2：n=4）

	STEP 1	STEP 2
とても悪かった	0 (0.0%)	0 (0.0%)
悪かった	0 (0.0%)	0 (0.0%)
どちらでもない	2 (25.0%)	1 (25.0%)
良かった	4 (50.0%)	2 (50.0%)
とても良かった	2 (25.0%)	1 (25.0%)
参加していない	0 (0.0%)	0 (0.0%)

○内容（STEP 1：n=8 STEP 2：n=4）

	STEP 1	STEP 2
とても悪かった	0 (0.0%)	0 (0.0%)
悪かった	0 (0.0%)	0 (0.0%)
どちらでもない	2 (25.0%)	1 (25.0%)
良かった	4 (50.0%)	2 (50.0%)
とても良かった	2 (25.0%)	1 (25.0%)
参加していない	0 (0.0%)	0 (0.0%)

○時間配分（STEP 1：n=8 STEP 2：n=4）

	STEP 1	STEP 2
とても悪かった	0 (0.0%)	0 (0.0%)
悪かった	0 (0.0%)	0 (0.0%)
どちらでもない	4 (50.0%)	0 (0.0%)
良かった	3 (37.5%)	4 (100.0%)
とても良かった	1 (12.5%)	0 (0.0%)
参加していない	0 (0.0%)	0 (0.0%)

○研修1～4

○テーマの選定（研修1・2：n=8 研修3・4：n=4）

	研修1	研修2	研修3	研修4
とても悪かった	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
悪かった	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
どちらでもない	0 (0.0%)	1 (12.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
良かった	2 (25.0%)	6 (75.0%)	1 (25.0%)	2 (50.0%)
とても良かった	6 (75.0%)	1 (12.5%)	3 (75.0%)	2 (50.0%)
参加していない	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

○内容（研修１・２：n＝８　研修３・４：n＝４）

	研修１	研修２	研修３	研修４
とても悪かった	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
悪かった	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
どちらでもない	0(0.0%)	2(25.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
良かった	2(25.0%)	5(62.5%)	0(0.0%)	1(25.0%)
とても良かった	6(75.0%)	1(12.5%)	4(100.0%)	3(75.0%)
参加していない	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)

○時間配分（研修１・２：n＝８　研修３・４：n＝４）

	研修１	研修２	研修３	研修４
とても悪かった	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
悪かった	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
どちらでもない	1(12.5%)	2(25.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
良かった	3(37.5%)	5(62.5%)	1(25.0%)	2(50.0%)
とても良かった	4(50.0%)	1(12.5%)	3(75.0%)	2(50.0%)
参加していない	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)

○アフター企画　意見交換会

○テーマの選定（STEP１：n＝８　STEP２：n＝４）

	STEP１	STEP２
とても悪かった	0(0.0%)	0(0.0%)
悪かった	0(0.0%)	0(0.0%)
どちらでもない	1(12.5%)	1(25.0%)
良かった	4(50.0%)	1(25.0%)
とても良かった	1(12.5%)	1(25.0%)
良かった	4(50.0%)	1(25.0%)

○内容（STEP１：n＝８　STEP２：n＝４）

	STEP１	STEP２
とても悪かった	0(0.0%)	0(0.0%)
悪かった	0(0.0%)	0(0.0%)
どちらでもない	1(12.5%)	1(25.0%)
良かった	4(50.0%)	1(25.0%)
とても良かった	1(12.5%)	1(25.0%)
参加していない	2(25.0%)	1(25.0%)

○時間配分（STEP 1：n＝8 STEP 2：n＝4）

	STEP 1	STEP 2
とても悪かった	0 (0.0%)	0 (0.0%)
悪かった	0 (0.0%)	0 (0.0%)
どちらでもない	2 (25.0%)	2 (50.0%)
良かった	3 (37.5%)	0 (0.0%)
とても良かった	1 (12.5%)	1 (25.0%)
参加していない	2 (25.0%)	1 (25.0%)

各都道府県役員への案内については、開催までの日程が少なかったこともあり、参加者数としては少ない結果となった。

集合型の研修では、遠方からの参加は難しいが、WEB形式ならではのメリットを生かした取り組みが出来たと考えられる。

他都道府県の役員の意見を聴取することが出来たことは、今後の事業展開のうえで大きな情報を得ることが出来たのではないかと考えられる。

Ⅲ-4 成育医療分野の総合支援ステップアップ多職種連携ワークショップの開催

①成育医療分野の総合支援ステップアップ多職種連携ワークショップの開催

コロナ禍で対面による多職種のワークショップの開催が難しかったため、WEB開催とした。（令和4年3月25日）

成育医療分野の総合支援ステップアップ
多職種連携ワークショップ

【主催】
(一社)愛媛県薬剤師会
(厚生労働省「令和3年度成育医療分野における薬物療法等に係る連携体制構築推進事業」)

【日時】
2022年3月25日(金) 19:30~21:00
WEB(ZOOMミーティング使用)にて開催

【内容】※詳細は変更となる場合がございます。
19:30~19:40 オープニング
19:40~20:30 模擬症例を用いた多職種によるグループワーク
20:30~20:50 感想、課題の検討
20:50~21:00 クロージング

【参加予定者】順不同、敬称略にて記載させていただいております。
小林 千春(愛媛県重症心身障害児(者)を守る会)
大藤 佳子(ゆりかごファミリークリニック)
緒方 春美(あゆみ苑)
門脇 雅也・中村進吾(高松市設株式会社)

堀田 幸裕(愛媛県薬剤師会)
村山 勝志(むらやま薬局)
安藤 智宏(あすなろ薬局明屋敷店)
今井 崇景(済生会西条病院薬剤部)
庄野 由桂(愛媛県薬剤師会・庄野薬局神拝店)

患者背景
・3歳 7Kg 男
疾患：脊髄性筋萎縮症
運動発達障害
気管切開後・人工呼吸器管理
胃瘻造設術
尿路結石症

何をすればいいの？
胃瘻造設
どのように薬を
飲ませるんだ・・・

・Dr.より
配達・在庫管理依頼

本当に
配達・在庫管理だけでいいの？
薬剤師さん・・・何してくれるの？
患者家族・相談員さん
他職種の方の見方は・・・

情報が無い！
方法が欲しい！

調剤の前に訪問 状態確認の為に患者宅訪問

患者さんに初めて会い病院の状態がここにある。
人工呼吸器・吸引機そして胃瘻。
お母さんは、話をしながらこまめに吸引をこなす。
どうしよう・・・



しかし、何かできることは絶対にあるはず！

お母さんも、不安なはず！！

お母さんの不安ストレスを軽減させることはできないか？
お母さんと一緒に考えていこうと考えました！

Q、お母さんに困っていることはないか？

A、お母さん、薬のセットが大変で間違いそう
災害があったら電気が止まったら・・・
ラコールは、2か月分は自宅に保管したい・・・
今は、祖父達がサポートしてくれているが・・・

不安で不安でたまらない！



模擬症例を用い、当事者を含めた多職種によるグループワークにて、どのような点に着目して情報収集や支援をしていくべきか、どのような支援が有用か等について話し合った。その中で、患者や家族の思いを尊重し生活を支えるためには、各職種の専門性を理解した上で活かしあう連携体制の構築が重要であることが再認識された。

また、多岐にわたる課題に対応するためには、薬剤師にもより高度な専門知識の習得とそれを患者の生活に役立てる応用力が必要であることがわかった。

Ⅳ 総合評価と課題

1 総合評価

事業の成果指標として設定した項目についてはアンケート調査により収集を行い、解析したところ以下のとおりであった。

Ⅳ―1 妊娠から出産、小児期にわたる医療への薬局での関わりについて事業実施後の変化に関するアンケートの実施

①妊娠から出産、小児期にわたる医療への薬局での関わりについて事業実施後の変化に関するアンケート

愛媛県内の保険薬局を対象として Google フォームを用いたWEB形式のアンケートにて実施した。（令和4年3月10日～3月18日）

1) 新たに対応を行った患者数

○令和3年10月以降に、周産期の患者との関わりがありましたか 複数回答

（n=234 回答率38.9%（ ）内のパーセンテージは支部回答薬局中の割合）

支部	以前から来局		新患者		なし
	外来	在宅	外来	在宅	
宇摩	1(8.3%)				11(91.7%)
新居浜	6(28.6%)		3(14.3%)		12(57.1%)
西条	1(4.5%)		1(4.5%)		20(90.9%)
今治	3(10.0%)		1(3.3%)		26(86.7%)
松山	19(14.6%)	1(0.8%)	11(8.5%)		104(80.0%)
大洲					10(100.0%)
八幡浜					5(100.0%)
宇和島					4(100.0%)
県全体	30(12.8%)	1(0.4%)	16(6.8%)		187(79.9%)

○令和3年10月以降に、医療的ケア児の患者との関わりがありましたか

複数回答（n=234 回答率38.9%（ ）内のパーセンテージは支部回答薬局中の割合）

支部	以前から来局		新患者		なし
	外来	在宅・施設	外来	在宅・施設	
宇摩					12(100.0%)
新居浜	5(23.8%)	2(9.5%)			14(66.7%)
西条	2(9.1%)				20(90.9%)
今治	4(13.3%)				26(86.7%)
松山	9(6.9%)	8(6.2%)	1(0.8%)		112(86.2%)
大洲					10(100.0%)
八幡浜					5(100.0%)
宇和島					4(100.0%)
県全体	20(8.5%)	10(4.3%)	1(4.3%)		203(86.8%)

○令和３年１０月以降に、小児慢性特定疾患の患者との関わりがありましたか

複数回答（n＝234 回答率 38.9％（ ）内のパーセンテージは支部回答薬局中の割合）

支部	以前から来局		新患者		なし
	外来	在宅・施設	外来	在宅・施設	
宇摩	2(16.7%)			1(8.3%)	9(75.0%)
新居浜	6(28.6%)	1(4.8%)			14(66.7%)
西条	3(13.6%)				19(86.4%)
今治	6(20.0%)				24(80.0%)
松山	19(14.6%)	3(1.88%)	1(0.8%)		109(83.8%)
大洲	1(10.0%)				9(90.0%)
八幡浜					5(100.0%)
宇和島					4(100.0%)
県全体	37(15.8%)	4(1.7%)	1(0.4%)	1(0.4%)	191(81.6%)

○令和３年１０月以降に、処方箋応需以外の場面での相談を応需したことがあるか

複数回答（n＝234 回答率 38.9％（ ）内のパーセンテージは支部回答薬局中の割合）

支部	周産期	医療的ケア児	小児慢性 特定疾患	左記以外	なかった
宇摩					12(100.0%)
新居浜			1(5.0%)		19(95.0%)
西条	1(4.3%)				22(95.7%)
今治					30(100.0%)
松山	1(0.4%)	1(0.4%)	1(0.4%)		127(97.7%)
大洲					10(100.0%)
八幡浜					5(100.0%)
宇和島					4(100.0%)
県全体	2(0.9%)	1(0.9%)	2(0.4%)		229(97.9%)

事業の取組の中で、新たに対応を行った薬局については、数件ではあったが増加していた。また、処方箋の取り扱いだけでなく、相談に応じることも新たに発生しており、継続した取組が必要であると考えられる。

2) 新たに連携を行った職種数

○周産期の患者との関わりの中で新たに連携した職種 複数回答

支部	医師	看護師	他機関の 薬剤師	ヘルパー	行政職員	相談員	支援団体
宇摩							
新居浜	3	1	1				
西条	1						
今治							
松山	7	5	1	1			
大洲							
八幡浜							
宇和島							
県全体							

○医療的ケア児の患者との関わりの中で新たに連携した職種 複数回答

支部	医師	看護師	他機関の 薬剤師	ヘルパー	通所 事業所	学校・ 保育職員	行政職員	コーディネーター 相談員	支援団体
宇摩									
新居浜	1		2	1				1	
西条	1								
今治									
松山	6	6	1	1	2	1		1	
大洲									
八幡浜									
宇和島									
県全体									

多職種との連携構築の進捗状況としては、対象患者のいるエリアにおいて新たに連携する職種が増えるという結果が得られた。

ただし、エリアが限定されること、全体的な波及効果につながっていないことなどは今後の課題と考えられる。医療職以外との新たな連携体制が構築されている事例もあり、事業の効果があったものと考えられる。

3) 新たに患者対応として実施した内容

○医療的ケア児の患者へ新たに実施した内容について選択してください

(複数選択可) 【調剤上の工夫】

	宇摩	新居浜	西条	今治	松山	大洲	八幡浜	宇和島
粉碎		4	1	2	12			
一包化		3	1	1	8			
賦形			1	1	6			
矯味矯臭剤 の混合								
その他		1			1			

○医療的ケア児の患者へ新たに実施した内容について選択してください

(複数選択可) 【薬学的管理上の工夫】

	宇摩	新居浜	西条	今治	松山	大洲	八幡浜	宇和島
処方提案		2			1			
アドヒアランス 向上のための 指導		3	1	2	6			
その他		1		1	2			

○小児慢性特定疾患の患者へ新たに実施した内容について選択してください

(複数選択可) 【調剤上の工夫】

	宇摩	新居浜	西条	今治	松山	大洲	八幡浜	宇和島
粉碎	2	6		1	15	1		
一包化	2	3		2	10			
賦形	1	4		2	9	1		
矯味矯臭剤 の混合								
その他								

○小児慢性特定疾患の患者へ新たに実施した内容について選択してください

(複数選択可) 【薬学的管理上の工夫】

	宇摩	新居浜	西条	今治	松山	大洲	八幡浜	宇和島
処方提案								
アドヒアランス 向上のための 指導	2	3	2	1	12			
その他								

医療的ケア児、小児慢性特定疾患の患者に対して、新たな取り組みを、工夫を行った薬局の調査結果を見ると、調剤行為、指導内容への工夫にとどまらず、処方提案の取組を行

った薬局もあった。

こちらも、エリアが限定されること、全体的な波及効果につながっていないことなどは今後の課題と考えられるが、まずは事業実施により一歩前に進めることができたのではないかと考えられる。

4) その他事項

○これから、周産期・医療的ケア児・小児慢性特定疾患患者への対応を行う上で知りたい内容にはどのようなものがありますか？（複数選択可）【全般的な事項】

	受講希望	
	事業実施前	事業実施後
成育医療全般について	219 (67.4%)	155 (66.2%)
周産期医療について	161 (49.5%)	87 (37.2%)
医療的ケア児について	153 (47.1%)	109 (46.6%)
小児慢性特定疾患について	179 (55.1%)	130 (55.6%)

○これから、周産期患者への対応を行う上で知りたい内容にはどのようなものがありますか？（複数選択可）【周産期】

	受講希望	
	事業実施前	事業実施後
病態・診断・治療について	192 (59.1%)	174 (74.4%)
薬物療法について	251 (77.2%)	173 (73.9%)
調剤技術について	77 (23.7%)	81 (34.6%)
服薬指導について	172 (52.9%)	140 (59.8%)
公的支援制度について	126 (38.8%)	80 (34.2%)
民間の支援制度について	83 (25.5%)	48 (20.5%)
患者・家族とのコミュニケーション法について	81 (24.9%)	81 (34.6%)
患者・家族の心理、思いについて	92 (28.3%)	73 (31.2%)
他職種との連携方法について	116 (35.7%)	84 (35.9%)

○これから、医療的ケア児への対応を行う上で知りたい内容にはどのようなものがありますか？（複数選択可）【医療的ケア児】

	受講希望	
	事業実施前	事業実施後
病態・診断・治療について	226 (69.5%)	177 (75.6%)
薬物療法について	245 (75.4%)	168 (71.8%)
調剤技術について	126 (38.8%)	102 (43.6%)
服薬指導について	181 (55.7%)	152 (65.0%)
公的支援制度について	141 (43.4%)	92 (40.6%)
民間の支援制度について	100 (30.8%)	59 (25.2%)
患者・家族とのコミュニケーション法について	123 (37.8%)	101 (43.2%)
患者・家族の心理、思いについて	109 (33.5%)	83 (35.5%)
他職種との連携方法について	118 (36.3%)	95 (40.6%)

○これから、小児慢性特定疾患患者への対応を行う上で知りたい内容にはどのようなものがありますか？（複数選択可）【小児慢性特定疾患】

	受講希望	
	事業実施前	事業実施後
病態・診断・治療について	230 (70. 8%)	179 (76. 5%)
薬物療法について	248 (76. 3%)	176 (75. 2%)
調剤技術について	115 (35. 4%)	105 (44. 9%)
服薬指導について	185 (56. 9%)	149 (63. 7%)
公的支援制度について	134 (41. 2%)	94 (40. 2%)
民間の支援制度について	89 (27. 4%)	58 (24. 8%)
患者・家族とのコミュニケーション法について	119 (36. 6%)	101 (43. 2%)
患者・家族の心理、思いについて	97 (29. 8%)	78 (33. 3%)
他職種との連携方法について	112 (34. 5%)	91 (38. 9%)

事業の実施前後において、知りたい内容についての検討を実施したが、内容に大きな変化は見られなかった。

このことは、成育医療分野が広範囲にわたることも関係していると考えられる。特に病態・診断・治療や薬物療法は、患者により多岐にわたるため、継続的に個々の疾患も対象としたレベルアップのための研修会も必要と考えられる。

コミュニケーションについては、自由意見でも困っている、躊躇しているといった意見が出ていたが、事業実施後に若干ではあるが、要望が増えている。これは成育医療分野にとどまらず、一般的に必要なとされるスキルでもあるため、今後取り組むべき課題として取り上げていければと考えられる。

○「令和3年度成育医療分野における薬物療法等に係る連携体制構築推進事業」の研修会は役に立ちましたか。

	受講者のいる 薬局数	とても 役に立った	役に立った	どちらでも ない	あまり役に立 たなかった	役に たたなかった
宇摩						
新居浜	6	4 (66. 7%)	2 (33. 3%)			
西条	7	2 (28. 6%)	5 (71. 4%)			
今治	4	2 (50. 0%)	2 (50. 0%)			
松山	18	6 (33. 3%)	10 (55. 6%)	2 (11. 1%)		
大洲						
八幡浜						
宇和島						
合計	35	14 (40. 0%)	19 (54. 3%)	2 (5. 7%)	0	0

研修会の受講後に、受講者には研修会の有用性についてアンケートを行い、良好な結果が得られているが、実際に薬局内での研修受講の効果について、検証を行った。

結果としてほとんどの薬局において「役に立った」との評価を得ることが出来た。

しかし、まだまだ全体的な波及には及んでいないため、今後継続的な取り組みが不可欠と考えられる。

5) その他の成果

モデル地区として設定した新居浜地区での、意見交換会の開催により、「新居浜市医療的ケア児等支援協議会」の正式なメンバーとして参加することになった。

令和3年11月18日 新居浜市医療的ケア児等支援協議会 新居浜市役所

小児科医師・訪問看護師・特別支援学校・支援事業所・保健所・保健センター・教育委員会・行政職員・薬剤師会（委員として新たに参加）

2 課題及び改善策

本事業では、「専門性の高い薬剤師の育成」及び「多職種による連携体制構築」に向け、県下全域を対象とした「実態調査」「研修会」、モデル地区を対象とした「意見交換会」「ワークショップ」等を中心に事業を実施してきた。

これまでのWEB開催のノウハウを発展させ、新たに「動画視聴」の取組も始めたが、一定程度の受講者を獲得することにつながった。また、WEB開催の長所として、県外からの参加も容易であることがあげられるが、県内に受講を限定しなかったため、県外の受講者も一定程度受け入れる結果となり、アンケートや連絡を直接頂くなどの方法により多くの感想・意見を得られたことは、今後の改善につながる大きな成果と考えられる。

実態調査でも見られるように、患者の受診地域の偏在が見られること、対応経験のある薬局が限られることなどは、知識を得られても実践できる場面が得られないなどの弊害も考えられる。今回の意見交換会、ワークショップに参加して、他職種と交流、意見交換をするプログラムを経験した薬剤師は座学の場合に比べ、患者支援や多職種連携の実践に向け前向きになっている現状も見られるため、次年度以降は座学ではより具体的、実践的な内容を取り入れるとともに、ワークショップの開催で多職種との交流機会が得られるように配慮し、より多くの者が患者や家族、多職種支援者との距離を縮められるように取り組むことが必要と考えられる。

今回の事業により、成育医療分野における「専門性の高い薬剤師の育成」及び「多職種による連携体制構築」における環境整備を実施することが出来たが、県内全体のレベルアップ及び連携体制構築にあたっては、継続的に多職種と連携し、患者情報を共有する体制を維持する必要がある。患者が住み慣れた地域で自分に適した薬局を選択できるよう、また気軽に相談することが出来る薬局になるよう、引き続き関係団体と協力し、薬剤師と多職種の連携事業を継続していきたい。